

下野市立緑小学校

1 学校課題

(1) 研究テーマ

「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」
～自己有用感を高め、意欲的に活動する児童を育む特別活動をめざして～

(2) 研究構想図

学校教育目標
自ら考え、主体的に行動できる心豊かな子どもの育成
かしこく やさしく たくましく

目指す児童像と具体目標、本年度の努力点

	かしこく	やさしく	たくましく
児童像	学び合う子	思いやる子	きたえる子
具体目標	確かな学力の育成	豊かな心の育成	生きぬく力の育成
本年度の努力点	◎聴き合う授業づくり ◇学ぶ楽しさを実感する授業	◎認め合う仲間づくり ◇ふれあいの喜びを実感する学年・学校行事	◎鍛え合う心と体づくり ◇健康で豊かに生きる喜びを実感する学校生活

□前年度のサブテーマ
できる喜びを知り、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫

□児童の実態
①基礎・基本はよく身に付いている。
②学習への関心・意欲が低い傾向にあり、自信を持って学習に取り組めていない児童が見られる。

□今日的な教育課題
①児童の自然体験や社会体験の機会減少によるコミュニケーション能力や人間関係をつくる能力の育成不足。
②学ぶ楽しさを実感する「学習への関心・意欲・態度」、自分のことが好きという「自己肯定感」、役立っているという「自己有用感」が低い。

学校課題研究テーマ
「共に学び合い、高め合い、認め合う児童の育成」
～自己有用感を高め、意欲的に活動する児童を育む特別活動をめざして～

□研究内容

- (1) 授業での学び合いを通して、自己肯定感・自己有用感を高める指導の工夫をする。
 - ① S & U コラボ事業をはじめとした公開授業で実践する。
 - ② 一人一研究授業の形で全員が実施する。
- (2) 活躍の場を増やすことで自己有用感を高めていくという視点で、諸活動の見直しをする。
- (3) 実態調査
 - ① Q U 調査
 - ② 学力検査 CRT
 - ③ 全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査
- (4) 研究のまとめ
 - ① 成果と課題の確認
 - ② 市教育研究所等の研究紀要の作成
 - ③ 次年度へ向けて



2 研究計画

(1) 低・中・高学年ブロックに分かれて研究チームを作り、S & U コラボ事業をはじめとした公開

授業や一人一授業の指導案検討を通し、研究テーマに向けての研究を進める。

- (2) 児童の活躍の場を増やすことで自己有用感を高めていくという視点で、諸活動の見直しをする。
- (3) 実態調査及び環境整備を行う。
 - ① 全国学力・学習状況調査・とちぎっ子学習状況調査・QU調査（2回）
 - ② 標準学力検査教研式CRT（1月）
- (4) 研究のまとめ（2～3月）を行う。
 - ① 成果と課題の確認
 - ② 次年度の課題検討

3 研究内容

(1) 研究授業等の実践

	学年	学級	教科等	「単元名」・題材名・学校課題との関連・指導者
S & U コ ラ ボ 事 業	5	2	学活	「視力バッチリ大作戦！」 ○担任と養護教諭二人で、目の健康を意識させ、視生活を見直す授業。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 松本 敏先生
	1	2	学活	「友達と仲よく」 ○ソーシャルスキルを通して、仲間への入り方を学ばせる授業。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 久保田 善彦先生
	3	1	学活	「4年生への感謝の会を開こう」 ○4年生との体験活動の最後で、どう謝意を表すかという話し合い活動。 ・指導者：宇都宮大学教育学部教授 久保田 善彦先生
1 人 1 研 究 授 業 支 援 支	1	1	学活	「友達と仲よく」
	2	1	学活	「友達カルタ大会をしよう」
	2	2	学活	「友達カルタ大会をしよう」
	3	2	学活	「4年生への感謝の会を開こう」
	4	1	外国	「色と形」
	4	2	算数	「面積」
	5	1	学活	「目の健康」
	6	1	学活	「相手を思いやる言葉かけ」
	6	2	学活	「相手を思いやる言葉かけ」
	言 葉 自 活			「カ行音をつくろう」
支 援 生 単			「冬の校外学習の発表会をしよう」	
支 援 生 単			「冬の校外学習の発表会をしよう」	



※ 支援…特別支援学級

- (2) 児童の活躍の場を増やすことで自己有用感を高めていくという視点での、諸活動の見直し。
 - 3年生と4年生、5年生と6年生合同の校外学習の時間を設けた。
 - 委員会の中に企画委員会を設け、児童会の中心として活動すると共に、集会や行事の進行を努めさせた。

4 本年度の成果と課題

- (1) 成果（主としてS&Uコラボ事業に関する研究授業等を通して）
 - ①全体会では、グループでワークショップを行うことで、活発に意見交換をすることができた。（付箋の活用、司会や発表の役割を交代で行うことも効果的だった。）
 - ②幅広い内容で研究授業を行うことができた。（保健指導関係、ソーシャルスキル、話し合い活動）
 - ③教師が、他学年と共に活動できる場面を積極的に考えていた。また、下野市の「子ども未来プロジェクト」活動も有り、中学生との交流の場も多かった。
- (2) 課題
 - ①授業研究を進めるときに、児童の姿を見ていくという視点が欠けてきたという指摘を受けた。児童の姿を通して考えるという意識をしっかりと持っていきたい。
 - ②話し合い活動の環境整備が不十分である。また、学活全般において、小学校6年間を見通しての系統性が十分でないところがあるので、検討していきたい。